

平成27年度

全国体力・運動能力，運動習慣等調査

鹿児島県結果分析



平成28年 3 月

平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

1 調査の目的

全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、子供の体力等の状況に鑑み、全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に文部科学省が実施しているものです。

2 調査の結果について

本調査結果は、実技調査8項目、及び運動習慣等の質問紙調査による体力等の特定の一部分を示したものである。

また、学校の教育活動は、多面的、総合的に行われるものであり、調査結果は、あくまで学校における教育活動の一側面であるので、ご注意ください。

目 次

○ 県全体の調査結果(公立)	1
1 実技に関する調査結果概要	2
2 運動習慣等に関する調査結果概要	6
3 生活習慣等に対する調査結果概要	12
4 運動やスポーツ、体育・保健体育の授業に関する調査結果概要	15
5 全体考察	23
6 改善のポイント	27
○ 地区別の結果概要	28
○ 市町村別の調査結果	30

県全体の調査結果〔公立〕

本県の調査実施状況

1 調査の期間

平成27年4月～7月末

2 調査の概要

- 調査方法：悉皆調査
- 対象学年：小学校第5学年，特別支援学校小学部第5学年
中学校第2学年，特別支援学校中学部第2学年
- 調査事項
 - 児童生徒に関する調査
 - ・ 実技に関する調査：小学校・中学校ともに8項目の実技調査
(握力，上体起こし，長座体前屈，反復横とび，50m走，立ち幅とび，
ボール投げ，20mシャトルラン(中学校は持久走との選択))
 - ・ 運動習慣や運動への興味・関心に関する質問紙調査
 - 学校に対する質問紙調査
 - ・ 子供の体力向上に係る取組等に関する調査

3 本県調査参加校及び参加児童生徒数

○ 小学校	： 506校	14, 547人
○ 中学校	： 215校	13, 936人
○ 特別支援学校	： 4校	41人
計		725校 28, 524人

1 実技に関する調査結果概要

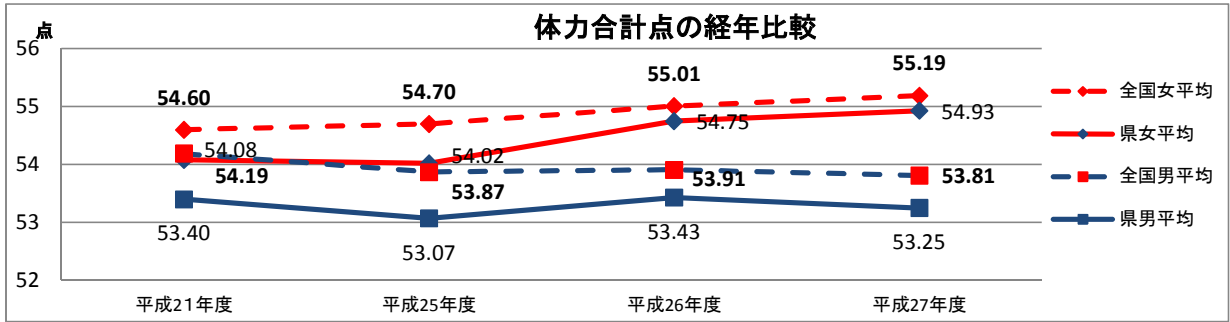
平成20年度は希望調査, 平成22・24年度は抽出調査, 平成23年度は東日本大震災による中止のため省略

(1) 本県の体力合計点に関する調査の結果

ア【小学校】 過去最低は下線 過去最高は色塗り

小学校		平成21年度(悉皆調査)			平成25年度(悉皆調査)			平成26年度(悉皆調査)			平成27年度(悉皆調査)		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
5年男子		53.40	54.19	-0.79	<u>53.07</u>	53.87	-0.80	53.43	53.91	-0.48	53.25	53.81	-0.56
		<u>54.08</u>	54.60	-0.52	54.02	54.70	-0.68	54.75	55.01	-0.26	54.93	55.19	-0.26

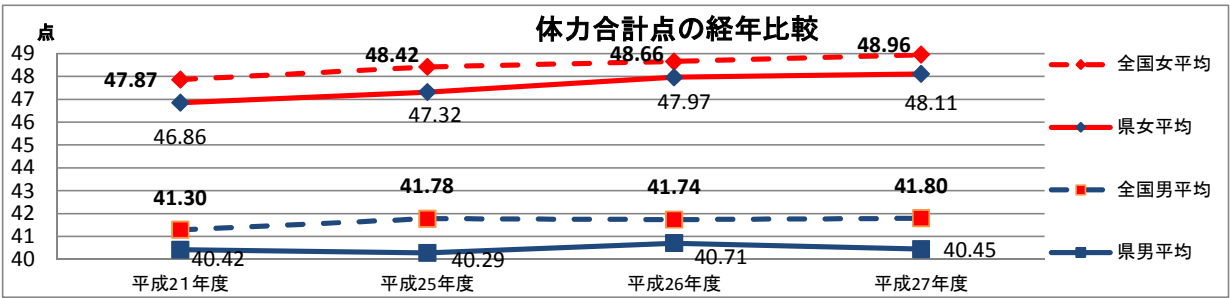
※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)
 ±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない



〈現状及び課題〉
 平成27年度の本県小学校の体力合計点の平均は、男子が53.25点、女子が54.93点であった。全国平均と比較すると男子が-0.56点で「わずかに低い」、女子が-0.26点で「ほとんど差がない」結果であった。
 女子は、調査開始以降最も高い値であったが、男子は、平成26年度の平均を0.18点下回った。男子は、全国との差が広がっている

イ【中学校】 過去最低は下線 過去最高は色塗り

中学校		平成21年度(悉皆調査)			平成25年度(悉皆調査)			平成26年度(悉皆調査)			平成27年度(悉皆調査)		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
2年男子		40.42	41.30	-0.88	<u>40.29</u>	41.78	-1.49	40.71	41.74	-1.03	40.45	41.80	-1.35
		<u>46.86</u>	47.87	-1.01	47.32	48.42	-1.10	47.97	48.66	-0.69	48.11	48.96	-0.85



〈現状及び課題〉
 平成27年度の本県中学校の体力合計点の平均は、男子が40.45点、女子が48.11点であった。全国平均と比較すると男子が-1.35点で「低い」、女子が-0.85点で「わずかに低い」結果であった。
 女子は、調査開始以降最も高い値であったが、男子は、平成26年度の平均を0.26点下回った。男女とも、全国平均との差が広がっている

(2) 体力合計点の度数分布

体力合計点の度数分布のグラフについて

※ 体力合計点の総合評価は、実技項目(8項目)の記録を、1点から10点に得点化し、その8項目の合計点をA, B, C, D, Eの段階に区分したものです。

○小学校 A:65以上 B:58～64 C:50～57 D:42～49 E:41以下

○中学校 A:57以上 B:47～56 C:37～46 D:27～36 E:26以下

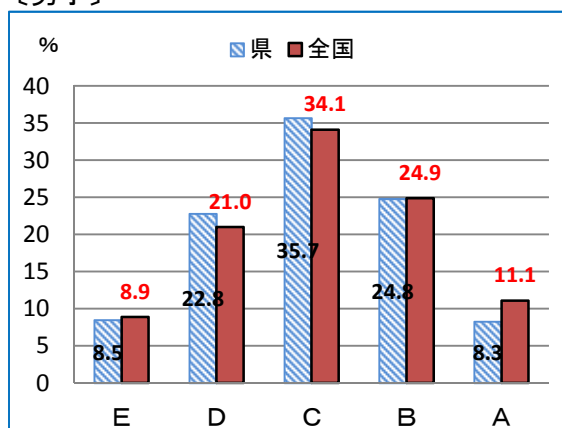
※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示しています。

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)

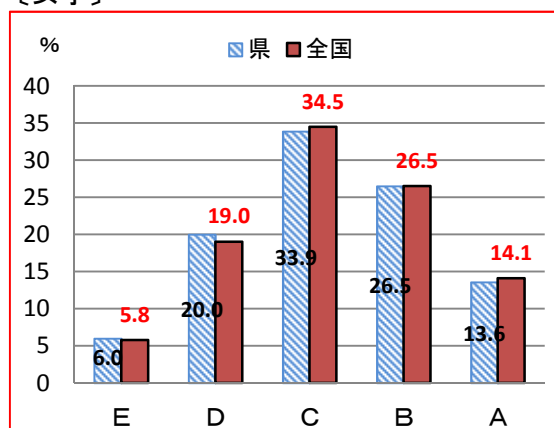
±1点以上:高(低)い ±0.5～1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

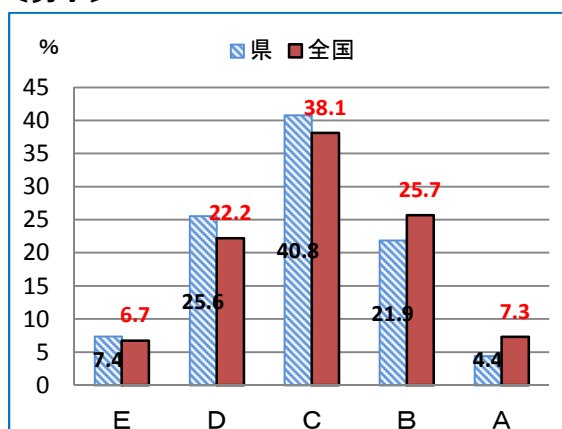


〈現状と課題〉

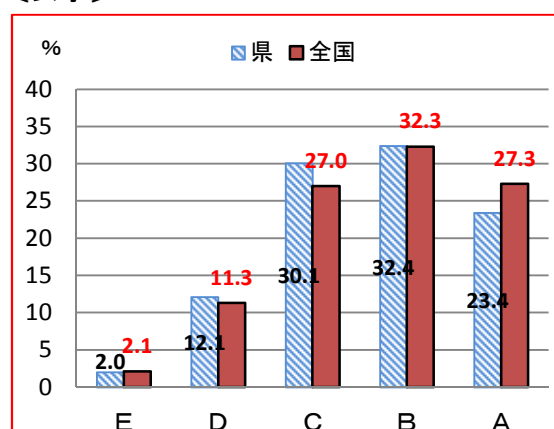
小学校男女の体力合計点の分布を全国と比較すると、男女ともにAの割合が少ない。また、男子はC, Dの割合が高く、女子はD, Eの割合が高い。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〈現状と課題〉

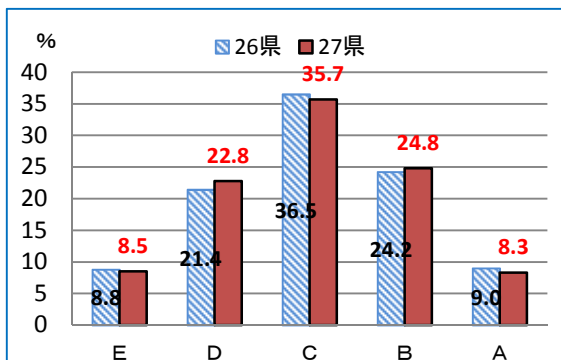
中学校男女の体力合計点の分布を全国と比較すると、男女ともにAの割合が少ない。また、男子はC, D, Eの割合が高い。女子は、B, C, Dの割合が高い。

(3) 体力合計点の度数分布の前年度との比較

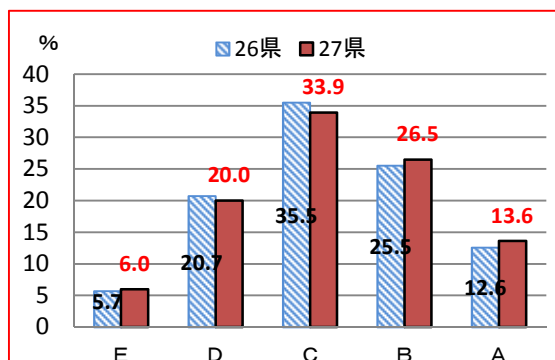
ア【小学校】

※ AB-DE値について
 全体的な体力の状況をとらえる指標の1つで、体力合計点Cをはさんで、Cよりも高いABとCよりも低いDEの差をみるものである。

〔男子〕



〔女子〕



〔男子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
26年度	9.0	24.2	21.4	8.8	3.0	
27年度	8.3	24.8	22.8	8.5	1.8	↓

〔女子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
26年度	12.6	25.5	20.7	5.7	11.7	
27年度	13.6	26.5	20.0	6.0	14.1	↑

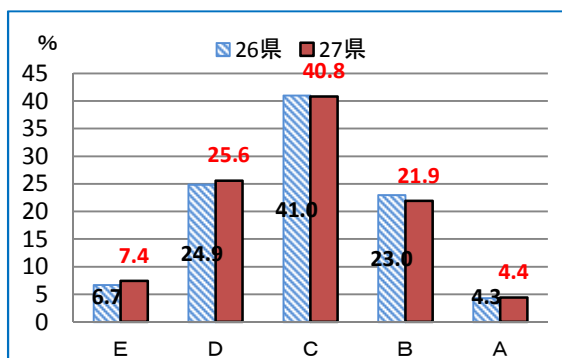
〈現状と課題〉

小学校男女の体力合計点の分布を前年度と比較すると、男子はE, Cの割合が減少しているが、Dの割合が、1.4ポイント増加している。Dの児童の体力及び運動への興味・関心を高めるための取組が必要である。

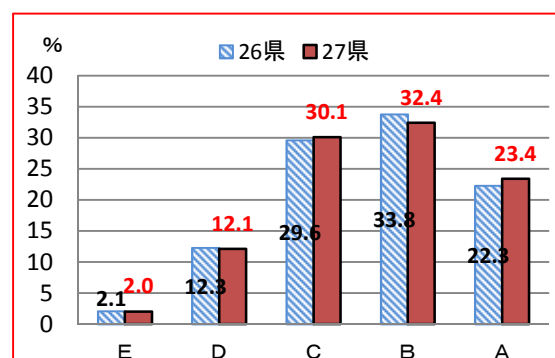
女子はD, Cの割合が減少するとともに、A, Bの割合がそれぞれ1ポイント高く何っている。Eの割合が0.3ポイント増加しているため、Eの児童の体力及び運動への興味・関心を高めるための取組が必要である。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〔男子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
26年度	4.3	23.0	24.9	6.7	-4.3	
27年度	4.4	21.9	25.6	7.4	-6.7	↓

〔女子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
26年度	22.3	33.8	12.3	2.1	41.7	
27年度	23.4	32.4	12.1	2.0	41.7	=

〈現状と課題〉

中学校男女の体力合計点の分布を前年度と比較すると、男子はB, Cの割合が減少するとともに、男子はD, Eのポイントがそれぞれ0.7ポイント増加している。D, Eの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるための取組が必要である。

女子は、E, D, Bの割合が減少するとともに、C, Aの割合が増加している。Cの生徒をB, Aに引き上げるための支援が必要である。

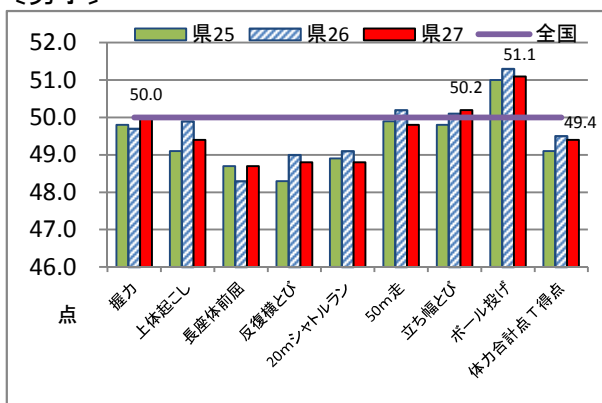
(4) 各実技調査項目のT得点結果について

各実技調査項目のグラフについて

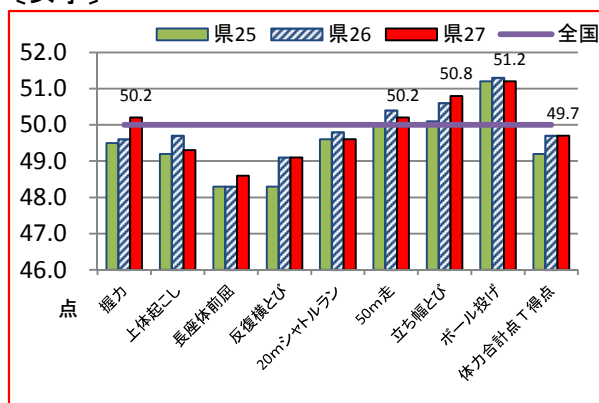
- ※ 実技調査項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(中学校は、持久走との選択)、50m走、立ち幅とび、ボール投げの8項目、及び体力合計点のT得点を示したものです。
- ※ T得点とは、全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較するものです。平均値50点、標準偏差10点の標準得点。「T得点=50+10×(調査結果-平均値)/標準偏差」で算出します。
- ※ グラフ上の50.0の目盛り線は、全国のT得点を表しています。

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

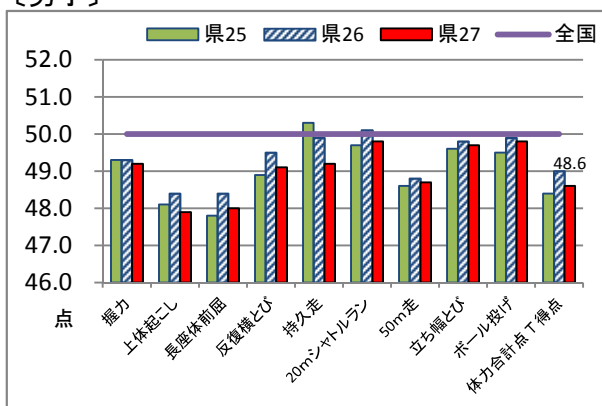


〈現状及び課題〉

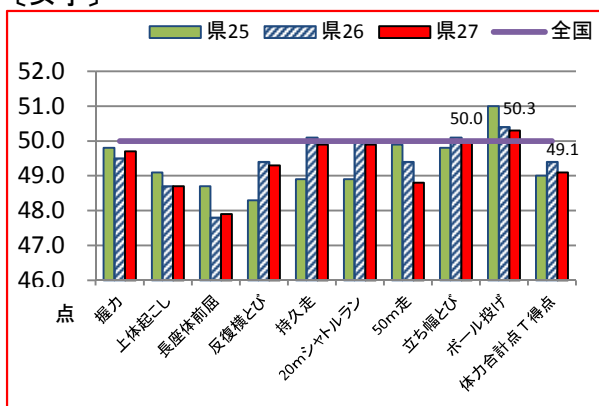
T得点50以上の実技調査項目は、男子が握力、立ち幅とび、ボール投げの3項目、女子が握力、50m走、立ち幅とび、ボール投げの4項目であった。
 前年度と比較すると男子は、握力、長座体前屈、立ち幅とびの3項目の記録が向上した。女子は、握力、立ち幅とびの2項目が向上した。
 長座体前屈のT得点は、男女ともに3年連続して49以下であり、柔軟性に課題がある。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

T得点50以上の実技調査項目は、男子は1つもなく、女子が立ち幅とび、ボール投げの2項目であった。
 男女ともに、前年度から記録が向上した項目はなかった。
 長座体前屈のT得点は、男女ともに3年連続して49以下であり、柔軟性に課題がある。
 また、男子は上体起こし、50m走のT得点だが、3年連続して49以下であり、筋持久力、瞬発力に課題がある。